

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2007-192024

(P2007-192024A)

(43) 公開日 平成19年8月2日(2007.8.2)

(51) Int. Cl.	F I	テーマコード (参考)
E03C 1/12 (2006.01)	E03C 1/12 D	2D061
	E03C 1/12 A	

審査請求 有 請求項の数 1 O L 公開請求 (全 5 頁)

(21) 出願番号	特願2007-125202 (P2007-125202)	(71) 出願人	506146068
(22) 出願日	平成19年5月10日 (2007.5.10)		當時久保 勇
			鹿児島県指宿市西方2382番地2
		(72) 発明者	當時久保 勇
			鹿児島県指宿市西方2382番地2
		Fターム(参考)	2D061 AA02 AB10 AC06 DA05 DE15

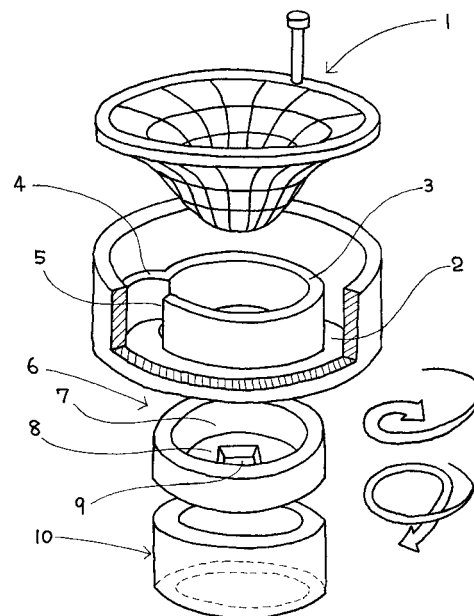
(54) 【発明の名称】 うず巻き排水口

(57) 【要約】

【課題】 従来の浴室洗い場の排水口は、清掃作業がしにくい問題があった。毛髪と皮脂汚れを含んだ石鹸かすが堆積してふさがり排水を詰まらせ、その堆積物は平形ヘアキャッチャーにへばりつき除去作業は困難であり不快だからである。

【解決手段】 ハット型ヘアキャッチャーからの落水を、ドーナツ型水路から内側のうず巻き発生室に引水して、うず巻きを発生させそのうず巻きを上昇させることで、ハット型ヘアキャッチャー内にうず巻きを発生させる。この作用により皮脂汚れを含んだ石鹸かすは汚水と共に効果的に排出でき、毛髪はまとめるうず巻き流水システムとした排水口とした。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ドーナツ型水路から、内側に配設するうず巻き発生室に、引水してうず巻きを発生させる流水システムとした排水口。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、排水部の清掃作業の利便性の向上を図ったうず巻き排水口に関する。

【背景技術】

【0002】

従来例えば浴室洗い場の排水口には、平形皿あるいは中央部分が上方に突出した平形ヘアキャッチャーが設置される。

【0003】

かご状のヘアキャッチャーを、バスタブからの排水うず流を利用して清掃しやすくした例も示されている。(特許文献1参照)。

【0004】

【特許文献1】特許第3886055号広報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

従来浴室洗い場の排水口は、清掃作業がしにくい問題があった。平形皿や平形ヘアキャッチャーは毛髪と皮脂汚れを含んだ石鹸かすが堆積してふさがり排水を詰まらせる。堆積物はへばりつき除去作業は困難であり不快である。

【0006】

本発明は、皮脂汚れを含んだ石鹸かすは汚水と共に効果的に排出して排水の詰まりを防止、毛髪はヘアキャッチャー内にまとめる様にする事で、清掃作業の利便性の向上の実現を目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0007】

本発明は上記目的を達成するためにドーナツ型水路から、内側に配設するうず巻き発生室に、引水してうず巻きを発生させる流水システムとした排水口とした物である。

【0008】

作用としては、ハット型ヘアキャッチャーから落水した汚水はドーナツ型水路上の引水板により引水され、内側に配設するうず巻き発生室の壁及び床に落水される。この時右回転で進入してくるのでそのまま右回転を続け右回転のうず巻きを成長させていく。うず巻きはドーナツ型腰壁の上端まで持続するので、ハット型ヘアキャッチャー内にもうず巻きが発生する。この作用により皮脂汚れを含んだ石鹸かすは排出され毛髪はまとまる。

【発明の効果】

【0009】

上述した様に本発明のうず巻き排水口は、ハット型ヘアキャッチャー内の毛髪と皮脂汚れを含んだ石鹸かすを運動させて固定化させず堆積しないので排水を詰まらせない。皮脂汚れを含んだ石鹸かすは汚水と共に効果的に排出でき、毛髪はヘアキャッチャー内にまとめることができる。本発明は排水部の清掃作業の利便性を向上させる効果がある。尚、本発明は台所流し台の排水口としても使用可能である。

【発明を実施するための最良の形態】

【0010】

本発明の実施の形態を図1～図5に基づいて説明する。図1において1はハット型ヘアキャッチャーである。上階としてドーナツ型水路2、ドーナツ型腰壁3、引水板4、引水口5で構成される。下階はうず巻き発生室壁7、うず巻き発生室床8、排水量調節穴9で構成されるうず巻き発生室6である。10は封水筒である。排水量調節穴9は視認性上正

10

20

30

40

50

方形で表記したが三角形や円形でも良い。ただし円形より正方形の穴がより激しいうず巻きを発生させる。全体の形状はおおまかに表現するとカップの底面に円形穴を開けカップを入れた形状である。

【0011】

作用を説明する。上部位置のハット型ヘアキャッチャー1から落水した汚水は、ドーナツ型水路2、ドーナツ型腰壁3で構成される集水空間に集水され右回転で進行し、引水板4、引水口5によりうず巻き発生室6に引水される。この時右回転してきた汚水はうず巻き発生室壁7、うず巻き発生室床8に落水し更に右回転を加速させる。一部は排水量調節穴9に排水されるが、一部は右回転を継続して上昇する。この作用によりハット型ヘアキャッチャー1の内部にも右回転のうず巻きを発生させることができる。ドーナツ型水路2は内側に傾斜させたり進行方向に向けて水勾配を付けても良い。

10

【0012】

図2においては図1の上面図を示した。ドーナツ型水路2は引水板4で仕切り単一的水路となっている。外周から中心に向けて右回転の水流を作る。

【0013】

図3においては引水板4を複数設けた例を示した。二枚の引水板4により引水して相互にうず巻き回転を助け合う例である。この例では引水板を短くして外周側を空けてある。引水板4は等間隔に三枚、あるいは四枚設けても良い。

【0014】

図4においては図1の断面図を示した。図5においては二種類の例を同時に示した。図4の例と異なる点はドーナツ型腰壁3の上部に円形筒11を設けた点である。引水口5が下端にあるがうず巻きは右回転を継続して円形筒11の上端までエレベータの様に上昇する。この時汚水は溢れても良い。再びドーナツ型水路2に落水してうず巻きの回転エネルギー源となる。

20

【図面の簡単な説明】

【0015】

【図1】本発明に係るうず巻き排水口を水平方向に分割した斜視図である。

【図2】本発明に係るうず巻き排水口図1の上面図である。

【図3】本発明に係るうず巻き排水口の別の例の上面図である。

【図4】本発明に係るうず巻き排水口図2のA-A断面図である。

30

【図5】本発明に係るうず巻き排水口の別の例の断面図である。

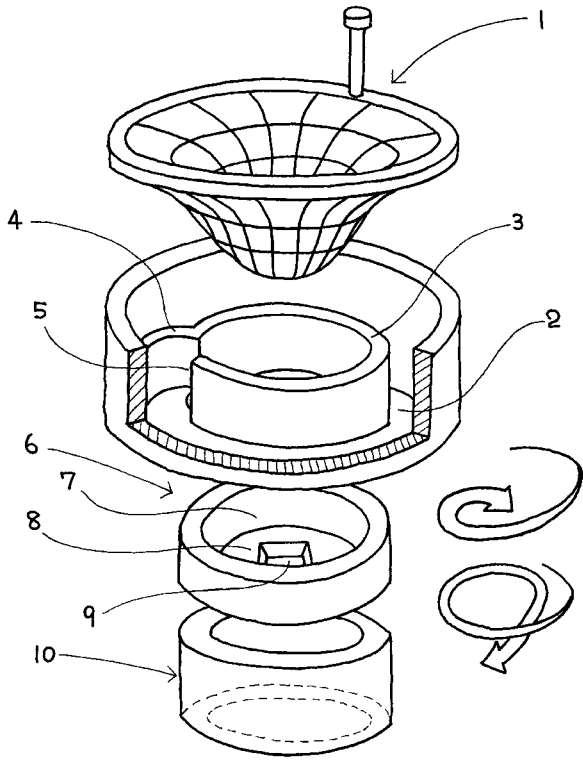
【符号の説明】

【0016】

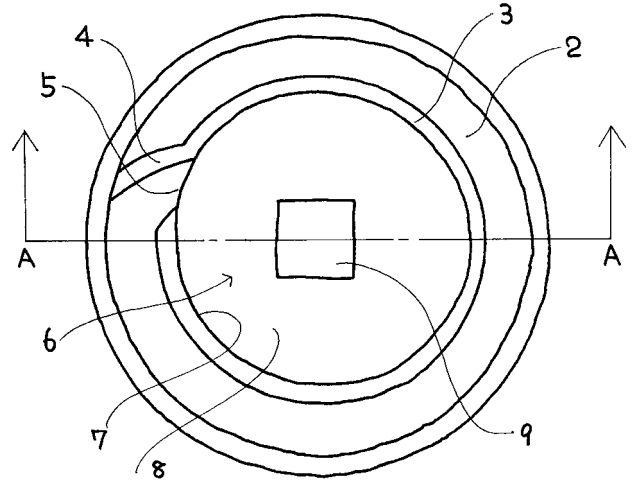
- 1 ハット型ヘアキャッチャー
- 2 ドーナツ型水路
- 3 ドーナツ型腰壁
- 4 引水板
- 5 引水口
- 6 うず巻き発生室
- 7 うず巻き発生室壁
- 8 うず巻き発生室床
- 9 排水量調節穴
- 10 封水筒
- 11 円形筒

40

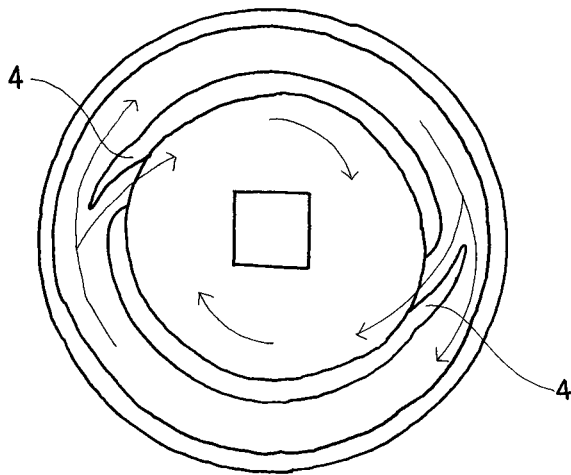
【 図 1 】



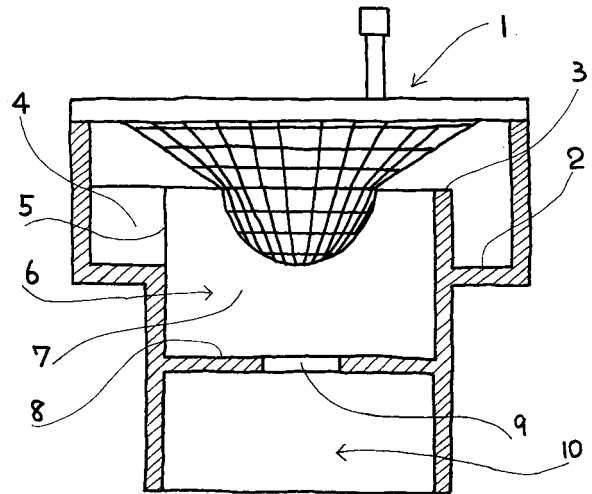
【 図 2 】



【 図 3 】



【 図 4 】



【 図 5 】

